

2020年度第1回 成蹊大学学生課外活動助言委員会

日時：2020年12月1日（火）

場所：メール会議

添付書類

- 助言委員会規則 . . . (別紙1)
- 助言委員名簿 . . . (別紙2)
- 前回議事録の確認 . . . (別紙3)

I. 報告事項

- 1. 体育会講習会の実施報告並びに予定について . . . (別紙4-1~6)
- 2. 体育会アンケート結果について . . . (別紙5-1~3)
- 3. OB・OG会長連絡協議会の活動について . . . (別紙6-1~4)
- 4. その他

II. 懇談

- 1. その他

第2回助言委員会（予定）

2021年2月18日（木）13:00~

ZOOM会議

以上

成蹊大学学生課外活動助言委員会規則

制 定 2014年 3月12日
学生部委員会
最新改正 2019年 5月22日
大学評議会

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学学生課外活動助言委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 委員会は、成蹊大学（以下「本学」という。）における学生による体育会課外活動の運営に関し、学生及び卒業生と定期的な意見交換を行うことにより、体育会課外活動の安全な運営を担保することを目的とする。

(任務)

第3条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 体育会課外活動の運営に関する意見交換
- (2) 体育会課外活動における事故防止に関する助言
- (3) 体育会OB・OG会長会との連携

(構成)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学生部長
- (2) 学生支援事務室の事務長又は課長
- (3) 各学部から選出された学生部委員 各1名
- (4) 健康・スポーツ科目部会から選出された委員 1名
- (5) 体育会OB・OG会長会から選出された委員 2名
- (6) 本学の体育会に所属する学生のうちから選出された委員 2名

(任期)

第5条 前条第3号から第6号までに掲げる委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前条第3号から第6号までに掲げる委員に欠員が生じた場合は、後任の委員を補充する。

3 補充のために選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、委員長は、学生部長をもって充てる。

(運営)

第7条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

3 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、学生支援事務室が所管する。

(規則の改廃)

第9条 この規則の改廃は、学生部委員会の議を経て、学長が行う。

附 則 (2014年 3月12日制定)

この規則は、2014年 4月1日から施行する。

附 則 (2019年 5月22日一部改正)

この規則は、2019年 6月1日から施行する。

第 2 回成蹊大学学生課外活動助言委員会議事抄録 (案)

日 時：2020 年 2 月 19 日 15 時 00 分～16 時 00 分

場 所：本館 101 会議室

出席者：境委員長兼健康スポーツ科目部会代表、田中・鳥毛・ジャマール・桃尾各学生部
委員、熊崎学生部担当課長、御厨・本間・OB 会長会代表、山田・菊池各学生代表

オブザーバー：河合学校医、小町 OB 会長会事務局長

事務局：藤井、氏原

委員会に先立ち、境委員長より昨年度のリーダーズキャンプで講師をされた校医の河合先生を委員会規則 7 条 3 項に基づきオブザーバーとして委員会に出席いただいたとの説明があった。また、委員の自己紹介後、前回の議事録について不備や追加事項等あれば、事務局まで連絡してほしいとの説明があった。

I. 報告事項

1. リーダーズキャンプについて

事務局より 2 月 20 日～21 日に実施予定のリーダーズキャンプについて、学生 116 名、OB5 名の計 121 名が参加予定であること、ならびにこの中で、「課外活動リーダー」学内資格取得のための講義と認定試験を行い、合格点に満たない者には当日中 (20 日) に再試験を行い全員の合格を目指すことの報告があった。

また、昨年に引き続き、株式会社ホープスの社長坂井伸一郎氏による講習会を実施予定であり、テーマは『チームビルディングについて』であることが報告された。

なお、前回宿泊を伴うリーダーズキャンプを行った際には事務局や OB 会も同行したが、今年は学生の自主性を尊重するため、同行しないことが報告された。

2. 体育会アンケート結果について

事務局より 2020 年 1 月に行われた学生部アンケートについて、明日より実施予定のリーダーズキャンプにおいて、グループディスカッションの資料としても活用予定であるとの報告があった。アンケートの中で現役部員への暴言等、目に余る OB がいることが報告された。これについて御厨委員より、そのような行為は時代錯誤であり、OB 会としても今後同様の事案が発生しないよう対応していくとの発言があった。また、熊崎委員より、SNS に関する項目ではリテラシーの高い回答が多数あり、今年度実施したホープスの坂井氏によるリスクマネジメントセミナーの効果が表れているとの発言があった。

3. 2019 年度体育会団体事故報告

事務局より 2019 年度、学生部に事故報告のあった怪我について報告があった。これについて、オブザーバーの河合校医より、熱中症事故についてはしっかりと対策をすれば防ぐことができるので、注意喚起を行い、対策を徹底させる必要があるとの発言があった。特に水泳部がプールから上がった後や準備の際は油断をしてしまう傾向があるので意識をして水分補給をする必要があるとの発言があった。併せて軽微な怪我についてはいちいち報告されていない可能性があるため、保険とは切り離れた即時性のある事故報告システムが必要であるとの指摘があった。また、熊崎委員より、人工芝特有のケガである前十字靭帯のケガが多数見受けられるため、サッカー場の芝の張替え等の対策を検討し学園に要望するとの発言があった。

II. 懇談

1. 2020 年度の取り組みについて

熊崎委員より、今年度より本格的に実施した株式会社ホープスによる講演が好評だったので来年度も年 3 回実施予定との説明があった。内容については 12 月に実施したアスリートセミナーアンケートの中で要望が多かった「メンタル面について」等、学生の意見に応じて検討していくことが確認された。また、今後は参加対象を一般学生にも広げていく方針であることが確認された。また、トレーニング・食育に関するセミナーについても今年度に引き続き実施予定であることが確認された。

以上

2020 年度体育会講習会について（報告と予定）

日付	タイトル	概要	講師	対象	人数
5月25日(月)	リスクマネジメントセミナー	SNS などのリスク管理	坂井伸一郎氏 ((株) ホープス代表)	課外活動団体へ入部希望の新生	約 200 人
9月17日(火)	① 勝つための栄養戦略 ② 大学生アスリートの為のパフォーマンストレーニング ※オンライン開催	① スポーツ選手に必要な栄養について ② スポーツパフォーマンスを向上させ、試合に勝つためのトレーニングについて	① 田口修子氏 (アスリートフードマイスター) ② 和田龍馬氏 (TOTALFITNESS PROGRAM 代表)	各団体 3-5 名	約 90 人
12月20日(日)	「チームビルディング(前編)」(仮称) ※オンライン開催 (ZOOM)	チームビルディングについての具体的なアドバイス (予定)	坂井伸一郎氏 ((株) ホープス代表)	体育会 2~3 年生の各 3 名、文化会団体の希望者各 2 名まで、OB・OG	
2月中旬~下旬	「チームビルディング(後編)」(仮称)	チームビルディングについての具体的なアドバイス (予定)	坂井伸一郎氏 ((株) ホープス代表)	リーダーズキャンプ参加者 (原則として主将、主務)	

[← 戻る](#) コンピューター 携帯電話/タブレット

アスリートセミナー (8/3) アンケート

* 必須

1. 学籍番号 *

回答を入力してください

2. 氏名 *

回答を入力してください

3. クラブ名 *

回答を入力してください

4. アスリート栄養セミナー (田口修子氏) の感想 *

回答を入力してください

5. アスリートトレーニングセミナー (和田龍馬氏) の感想 *

回答を入力してください

送信

2020年8月 アスリートセミナーアンケート集計結果

番号	団体名	参加状況		第1部、「アスリート栄養セミナー」の感想	第2部、「アスリートトレーニングセミナー」の感想
		指導者	学生		
1	アーチェリークラブ		1	ゼリー飲料は正直お菓子程度のもので、栄養バランスを整えられると思っていなかった。スポーツをする上で不足しがちな栄養分を摂取できるので、今後は暑い日は特に積極的に飲む習慣をつけたい。家ではみそ汁に必ず乾燥ワカメを入れているので、これを推奨する話を聞いたときは正直嬉しかった。	具体的なトレーニング方法を紹介してくれるのはとても良かった。今後の部活トレーニングメニューの参考にしていきたい。ジャンプする腕たてはやってみたところ5回が限界だったが、肩、腕の力を同時に聞かせることができるのでアーチェリーには効果的なものであると感じる。個人的には体幹トレーニングは全競技に関わるものなので、より詳しく紹介してほしいと思った。
2	アメリカンフットボール部		1	食事の組み合わせの重要性に再度気づかされました。細かく管理していくことは難しいのですが、選手の体づくりとしては大事なことで、指導していく立場として今後も勉強していこうと思いました。	様々なトレーニング方法を知れてとても勉強になりました。皆一緒ではなく、選手一人一人に合わせて筋トレのレベルを分けることも重要であると感じました。そのためには筋トレの種類をレベル別で深く知っておくべきだと思ったので、筋肉の構造から勉強して選手に指導できるように頑張ります。
3	弓道部		3	部活動関係なく、健康面において日頃意識出来る分野の内容でした。コンビニ商品の比較が興味深かったです。ハウレンソウよりも小松菜が良いとのことだったので、早速母にみそ汁の具材として提案してみました。 自分は栄養について無知であることがわかりました。今行っているダイエットがまさに悪い例で紹介されていたので、見直したいです。食べ物の組み合わせによって栄養価の摂取効率が変わるということを知ることができて勉強になった。	弓道部は筋トレをしていないため、トレーニングについての知識はほとんどありませんでしたが、弓を扱う上で、自粛期間に筋力が落ちてしまっているのが気になっていたため、軽めのトレーニングを試してみたいと思いました。 弓道において筋トレはあまり関係ありませんが、自分の力より少しきついトレーニングが必要であると知ったので、弓力を1段階上げてみたいと思います。 最近ではインターネット上にトレーニングについての情報は多くあるが、信ぴょう性の高い筋力トレーニングの正しい方法を知ることができて有意義な時間を過ごすことができた。
4	硬式庭球部		1	商品別でスライド資料を作ったため、分かりやすかったです。大学にあるファミリーマートの商品例を出してくださったのが興味深かったので、今後得た知識を活用していきたいと思えます。講義非常に面白かったです。ありがとうございました。	今まで部活ではハードなトレーニングを行ってきたわけではないので、今後は今回の講義で少し難易度が上がったトレーニングを活用していきたいです。講義非常に面白かったです。ありがとうございました。
5	蹴球部		2	体に「良い」とされている栄養素をただ摂るだけはいけないんだと学べ、自分自身の食生活を見直すきっかけとなりました。 一人暮らしをしているので栄養面は自分で気にしないと悪い方向に行ってしまうので先生の話聞いてためになる話ばかりだったのでちょっとしたところから気にして実践していきたいです。	トレーニングをいくつかの種類に分けることによって、パフォーマンスを向上できることを学ばせて頂きました。今後、ジムなどでトレーニングメニューを考える際に是非活用したいと思いました。 サッカーだけをやっていけばいいわけでは無い事を学び、フィジカル面など色々な所を自分に目を向けて高めていきたい。残りの大学生活の中で良い結果を出せるように頑張っていきたいと思いました。
6	準硬式野球部		1	スポーツ選手に良い食事やコンビニエンスストアでのおすすめの食べ物などが具体的に挙げられていてとても興味深く理解しやすい内容であった	筋肉トレーニングの正しい行い方や注意点などを理解することができた。これからは筋肉トレーニングを行うことがあることや、筋肉トレーニングを教える立場であることから正しいやり方を理解することができた。

2020年8月 アスリートセミナーアンケート集計結果

番号	団体名	参加状況		第1部、「アスリート栄養セミナー」の感想	第2部、「アスリートトレーニングセミナー」の感想
		指導者	学生		
7	ソフトボール部		3	改めて知ることが意外と多かったです。また、初めて運動部に入るのでしっかり体を作っていこうと思いました。食事に気をつけようと思えました。部員にも共有したいです。各メーカーのゼリー飲料に含まれている栄養素が分かり、参考になった。	体力が全くないので頑張りたいです。家でもできそうなものもあったので、部内で共有してみたいです。コロナの自粛期間中に、教わったトレーニング方法を実践しようと思った。
8	漕艇部		4	私たちがのような日頃運動をしている人に必要な栄養量や、その具体的な摂取方法や食材を多く示していただいたので、実際にどういったものを食べればいいのかというのが分かりやすいと思いました。また、私は食事にあまり気を使っていない方なので必要量を食べたり食べなかったりしていたが、筋肉などもある程度長期的なサイクルで変わると知ったのでこれから食を長期スパンで考えて、毎日の継続を大事にしたいと思いました。自分が知らなかった内容が多く、栄養の大切さを改めて実感しました。専門的な要素が少なく、実用性の高い内容で見ていてすぐにでも試せることをたくさん学べた。その中でもみんなが知っているけど見落としがちなことなどまで扱って為になった。フィットケミカルの抗酸化作用やヘム鉄と植物性鉄分の違いなどは非常に参考になった。普段栄養のことについて考えて食事していたが、まだまだだなと思った。選手が栄養について知っているのはいいことだと思った。	今までは部員全員が同じメニューを行っていたが、思い通りのパフォーマンスをできない原因は個々により異なると思うので個人個人が何が足りないのかを考え、その部分に重点を置くことを意識すればパフォーマンスのレベルが上がっていくのかと思いました。また、私自身がストレングスに課題があると思うので、現在の自粛期間で特にベースの部分改善したいと考えていたのでメニューを参考にしたいと思いました。普段のトレーニングに直結する内容だったため、とても面白く、モチベーションが上がりました。身体の機能に対するアプローチでトレーニングを解釈したことがなかったため、とても参考になった。和田さんには何回かお世話になっていて、今回も勉強になった。トレーニングの機能面での4分割は部に知識として共有し、新たに取り入れたいと感じた。
9	卓球部		1	今まで全く知識のなかった栄養に関しての話を聞き、未知だったものを知ったことにより意識が高まりとても価値のある時間だった。	トレーニングなどはしようと思ってもどこから始めるべきか、もしかしたら無駄なことをしているのではないかと感じてしまいモチベーションを保つのが難しかったが、詳しい話を聞けてとてもためになった。
10	軟式庭球部		1	スポーツにおける食事の重要性を改めて理解することができました。特に、運動中の水分補給については、今まではお茶や水を飲むことが多く、また量も足りていなかったと感じました。非常に参考になりました。	軟式庭球部ではウエイトトレーニングは特に行っていませんでしたが、ソフトテニスの動きにも有効なトレーニングがあると感じました。活動再開までの期間を有効に使うためにも、取り入れてみたいと考えています。
11	バドミントン部		1	今まで、タンパク質とかは気にして取っていたが、その他の栄養素も重要だということがわかったので、これからの食生活に生かしていこうと思いました。ありがとうございました。	現在、部活動が思うようにできない中で、1人でもできるトレーニングを動画付きでわかりやすく教えていただきありがとうございました。

2020年8月 アスリートセミナーアンケート集計結果

番号	団体名	参加状況		第1部、「アスリート栄養セミナー」の感想	第2部、「アスリートトレーニングセミナー」の感想
		指導者	学生		
12	バレーボール部		2	タンパク質の取りすぎが良くないことを初めて知りました。栄養だけではなくて睡眠を取ることを大切に改めて考えさせられました。バランスの良い食事を行うことが結果的に良いパフォーマンスを発揮することができるようになるんだなと思いました。当たり前のこととはいえ、普段意識してなかったのですが、こういう時だからこそ自分の健康や食生活と向き合っ練習がまたできるようになるまで復帰に向けた体作りをしていきたいと思います。ためになる貴重なお話をありがとうございました	個々でトレーニングをしている中で、トレーニングの種類にバリエーションがないという問題点があったので、大変ありがたかったです。部内で体幹などをすることはあれど、トレーニングらしいトレーニングなどはしていなかったもので、そういう場がなくとも自分で筋トレなど、パフォーマンスを向上させたい場所などを考えながら行っていきたいなと思いました。ためになる貴重なお話をありがとうございました。
13	ヨット部		1	料理を作っても初めて知ることが多く、とても役に立った。特に、ウイダーなどの栄養ゼリーの成分表について知れてよかった。活動が再開されたら、今回学んだ食材を使って料理を作りたい。次の講習ではコストがかからない食材や、効率よく栄養が取れる料理名や料理工程を知りたい。	あまりトレーニングなどをしないため、初めて知ることが多かった。少し興味を持ったのでプレイヤーのトレーニングに参加してみようと思った。
14	陸上競技部		1	鉄分についてのお話がとてもためになった。マツキヨのエネルギーゼリーの栄養成分バランスが1番良いというのが興味深かった。	ウェイトトレーニングは普段やらないので、新しい知識をたくさん得ることができた。
15	バスケットボール部		1	最初は栄養素の名前がたくさん出てきて、目安の量を見てもイメージしづらかったけれど、ファミマやゼリー飲料の例を見て実践したいと思いました。また、筋トレ後タンパク質を多くとれば筋肉が付きやすいと考えていたので今回話を聞いて良かったです。	大学では体で負けないように定期的に筋トレしているので聞いていて良かったです。最近ではプッシュアップの負荷が弱いと思っていたので負荷をかけるやり方を聞いて良かったです。ジムに行けるようになったらほかの筋トレも試したいです。
16	ラクロス部		3	ラクロス部でもセミナーをしていただいた事もあり、同じ内容もあったため復習にもなったが、自分の知らない熱中症対策などの点もあったのでとても有意義に学ぶことができた。スポーツドリンクの種類によって飲むべきタイミングや含まれているものが違うということを知り、これからの季節特に意識していきたいことだと思った。スライドがわかりやすく、学ぶ事が多かった。とくにゼリーを比較したスライドがおもしろかった。	今までの意識していたトレーニングよりも、より高次元的な意識や考え方、知識を持つことの重要性を感じた。個人的にストレングスの4つの分類がとてもためになったので取り入れたいと思う。基本的な知識をこれから学んでいくので少し難しく聞こえた部分が大きかった。トレーニングの知識をつけようと思っているところだったので非常に勉強になりました。
17	ライフセービング部		1	今年の夏は、マスクを着用しなければいけない機会が多いため、例年以上に熱中症に気をつけて過ごしていくための知識として、水分補給のポイントや詳しいスポーツドリンクの話が聞いて良かったです。	個人が目指すものによって、どのようなトレーニングが適しているかを様々なレベルで例を示して下さってわかりやすかったです。今後トレーニングする上での参考になりました。

2020年10月 体育会課外活動状況確認調査

体育会各部の活動状況やOB・OG会とのかかわり方を把握するためにアンケート調査を実施します。回答内容は秘密厳守とし、結果は公表致しませんので、ありのままに回答してください。選択方式の質問には()に○を付けてください。

【団体名： _____】

1. 通常授業期間中の活動場所および時間を教えてください。

曜日	月	火	水	木	金	土	日
場所							
時間							

2. 指導体制について教えてください。

- (1) 監督・師範・コーチ等のメイン指導者の有無について

()メインの指導者がいる (氏名: _____ 部内での役職名: _____)

メインの指導者と部との関係(_____)例:OB、プロ等

メインの指導者がいることについてOB・OG会は、

() 承知している

() 承知していない

()メインの指導者はいない

- (2) 指導者資格の有無について

() 指導者・学生の中に、トレーナー等、指導者資格の保有者がいる

保有資格名(_____)

() 指導者資格保有者はいない

3. OB・OG会との関係について教えてください。

() 良好である

() 特に問題は無い

() 良好ではない

() あまり関わりがない

4. 今後のOB・OG会との関係について部としてどのような方針か教えてください。

() 現状維持で問題ない

() もっと関わりを増やしたい

() もっと関わりを減らしたい

5. OB・OG会に部として望むことがあれば記入してください。

6. 部内の安全対策について教えてください

- (1) 熱中症や怪我の予防のため、部として取り組んでいることがあれば教えてください。
特に頭部の怪我（脳震盪など）に対する取り組みがあれば具体的に記入してください。

- (2) 怪我、事故が発生した場合の処置、連絡方法について、部内で周知されていますか。

- () 部内でマニュアルがあり、周知できている。
() マニュアルは無いが、周知できている。
() 幹部学生のみ知っている。
() 現場に居合わせた部員に任せている。
() わからない。
() その他 ()

7. 部で何か抱えている問題等があれば記入してください。個人的なもの、些細なことでもかまいません。

以上の通り、相違ありません。

記入者氏名： _____ 役職名： _____

提出先：学生部（2020年度よりオンライン回答形式に変更）

提出期日：2020年10月18日（日）

2019年度10月体育会課外活動状況確認調査結果

番号	団体名/質問事項	2. 指導体制について		3. OB・OG会との関係について	4. 今後のOB・OG会との関係について部としてどのような方針か	5. OB・OG会に部として望むこと	6. 部内の安全対策について		7. 自由記述
		(1)メイン指導者について	(2)指導資格の有無について				取組み	事故発生時の対処	
1-1	応援指導部(男)	曾我部隆介:監督:OB OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		水分補給	マニュアルはないが、周知できている	
1-2	応援指導部(女)	倉田優歩:コーチ:OG 松本真奈美:コーチ:OG OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない	特になし	・休憩をこまめにとる。 ・準備体操をしっかりする。	マニュアルはないが、周知できている	特になし
2	吹奏楽研究会	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		夏場は水分補給を欠かさないよう にしています。	現場に居合わせた部員に 任せている	運動はしないので特にないです。
3	アーチェリークラブ	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		全日本アーチェリー連盟のガイ ドラインの遵守	マニュアルは無い が、周知できている	新入生歓迎会の機会がないこと。 進入部生が少なく、3年後に部活を 維持できない可能性がある
4	アメリカンフットボール部	平野公亮:ヘッドコーチ:OB OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	もっと関わりを増やしたい	就活支援や資金支 援	脳震盪に関する講座を1年に1 回行っている。 怪我予防のため、体の柔軟性 や可動域を測定する機会を設 けている。	部内でマニュアルが あり、周知できている	特にございません。
5	合気道部	栗田稔:師範:所属流派師範 OBOG会承知している	正氣会合気道師範	良好である	現状維持で問題ない		熱中症や怪我の対策マニユ アルを作成し部員に周知して いる。	部内でマニュアルが あり、周知できている	
6	居合道研修会	山崎徹:監督:創立時から いる他大OB OBOG会承知している	居合道 師範	特に問題はない	現状維持で問題ない	特にありません。	熱中症についてはこまめに水分 補給するように促している。体 調が悪い人は休ませている。 怪我については過去活動中に 怪我をした人がいないので意識 していることはないが、安全の ためサポーターの着用と爪を短 くするよう指導はしている。	マニュアルはない が、周知できている	人がいないこと。次代の主将兼主務 に同期がいらない為に行き詰まった時 に大きなストレスを抱えないか心 配。 監督がご高齢で且つ次代の監督者 が見当たらないため監督が指導でき なくなった場合廃部になる可能性が ある。
7	空手道部(休部)								
8	弓道部	富澤明:師範兼監督:プロ OBOG会承知している	弓道教士7段	特に問題はない	もっと関わりを増やしたい	就職活動のアドバイ スを頂けるような機 会を増やしたいで す。	熱中症対策として、3時間の練 習の中で2回の休憩を取り入れ ている。また、水分補給につい ては休憩時間外でも認めてい る。	幹部学生のみ知っ ている	新入生の部員(特に男子部)が少な いため、試合の進行に差し支える可 能性があります。現状は女子部から 何人か手伝いに行くことで調節し ています。
9	剣道部	飯塚裕一:監督:OB OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない		こまめな水分補給、小休止	幹部学生のみ知っ ている	新歓
10	ゴルフ部	櫛田希世:コーチ:OG OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	もっと関わりを増やしたい		熱中症対策として夏場は特に上 級生が休憩や水分補給を促し ている。 頭部の怪我に対しては「ファー」 の掛け声を徹底している。	マニュアルはない が、周知できている	

2019年度10月体育会課外活動状況確認調査結果

番号	団体名/質問事項	2. 指導体制について		3. OB・OG会との関係について	4. 今後のOB・OG会との関係について部としてどのような方針か	5. OB・OG会に部として望むこと	6. 部内の安全対策について		7. 自由記述
		(1)メイン指導者について	(2)指導資格の有無について				取組み	事故発生時の対処	
11-1	硬式庭球部男子	平元:コーチ:部員の元コーチ OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	良好である	もっと関わりを増やしたい	吉祥寺のご飯屋さんと月いくらという契約で、定額をOB会から支給する代わりに、現場員が低価格でご飯食べられる環境を整えたい。現在、本格的に昇格を目指す上で、体作りがなりの優先事項となっている。その解決のために、ご尽力いただけると嬉しい。	水を入れた袋を、練習時に用意している。 また、試合の際にはパラソルやクーラーボックスを用意して、熱中症対策に努めている。	現場に居合わせた部員に任せている	今は、新しいことを多く取り入れている時期のため、部員にも戸惑いが見られる。 そこを安心させてあげられたらと思う。
11-2	硬式庭球部女子	平元和也:コーチ:知り合いのコーチ OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない		暑い時期はこまめな水分塩分補給、冷却を促している。また休憩などを通常より多く設ける。怪我に関しては声掛けなどを行い接触や転倒がないようにしている。	幹部学生のみ知っている	
12	(理)硬式庭球部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		休憩、給水をこまめにとっている。 足元のボールの注意など、声かけ。	マニュアルはないが、周知できている	新入部員が少ない。 特に女子の入部がなく、女子が廃部となる可能性がある。
13	硬式野球部	丸山完二:アドバイザー:中学時代の監督(前学生監督川田の) OBOG会承知している	プロ野球OB学生野球指導登録	良好である	現状維持で問題ない		こまめな休憩、水分補給の自由化、危険だと思われる状況へのリスク回避(バッティングの際にネットで防いだりヘルメットを被ったり)	マニュアルはないが、周知できている	
14	(理)サッカー部(休部)								
15	自転車部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		ヘルメットを必ず着用する	部内でマニュアルがあり、周知できている	
16	自動車部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	あまり関わりがない	現状維持で問題ない		水分補給の徹底、ヘルメットの完全着用	部内でマニュアルがあり、周知できている	
17	蹴球部	松尾尚之:監督:OB OBOG会承知している	日本サッカー協会指導者S級ライセンス	良好である	現状維持で問題ない		緊急連絡先の完備、トレーナー常同、事前の脳震盪チェック	部内でマニュアルがあり、周知できている	

2019年度10月体育会課外活動状況確認調査結果

番号	団体名/質問事項	2. 指導体制について		3. OB・OG会との関係について	4. 今後のOB・OG会との関係について部としてどのような方針か	5. OB・OG会に部として望むこと	6. 部内の安全対策について		7. 自由記述
		(1)メイン指導者について	(2)指導資格の有無について				取組み	事故発生時の対処	
18	柔道部	三浦武彦:監督:OB 和田龍馬:トレーナー:OB OBOG会承知している	監督:全日本柔道連盟公認A指導員 トレーナー:NACA-CSCS、NASM-PES、栄養コンシェルジュ	特に問題はない	現状維持で問題ない		熱中症などは早めに申し出るように予め部員に伝達しています。そして、少しでも体に異変が生じたら練習を中止させています。また、それから道着を脱がせ、涼しいところで休ませ、回復の見込みが薄ければ、自宅に帰るようにさせています。頭部のけが等は状況を見て、端で安静にさせると同時に重症なら救急車とあらかじめ主将が管理している連絡リストから親御さんに連絡を入れるようにしています。	マニュアルはないが、周知できている	現時点で特に申し上げることはありません。
19	準硬式野球部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない	資金援助をしていたきたい。	熱中症対策のためにこまめな水分補給と休憩を推奨している。各ポジションの近くにペットボトルを置くことを許可することで、簡単に水分補給をできるようにしている。	マニュアルはないが、周知できている	練習に来ない部員が数名いること。
20	少林寺拳法部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない		実践的な練習では、各部にプロテクターをつけるなどしている。	マニュアルはないが、周知できている	
21	スキー部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない	特になし。	各自が体調管理を徹底し、無理をしない。	マニュアルはないが、周知できている	特になし。
22-1	水泳部水球班	阿部辰弥:コーチ:プロ 小林大祐:コーチ:プロ OBOG会承知している	阿部辰弥:日本スポーツ協会公認水泳コーチ3 小林大祐:日本スポーツ協会公認水泳コーチ4	良好である	現状維持で問題ない	特にありません	常時冷蔵庫に経口補水液の用意・マネージャー内での近くの病院への連絡先共有	部内でマニュアルがあり、周知できている	特にありません
22-2	水泳部競泳班	瓜生真俊:コーチ:OB OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		部活動中の水分補給。練習前のストレッチ。初心者が飛び込みをやる時は、経験者が細心の注意を払う。	現場に居合わせた部員に任せている	
23	ソフトボール部	木藤盛雄:監督 OBOG会承知している	ソフトボールコーチ1	良好である	現状維持で問題ない	とくになし	こまめな水分補給	マニュアルはないが、周知できている	特になし
24	漕艇部	齊藤英弥:監督:OB OBOG会承知している	日本体育協会公認コーチ(ボート)	良好である	現状維持で問題ない	プレーで示すので、絶やさず応援してほしい	経口補水液は随時用意。アイシング等の準備。	マニュアルはないが、周知できている	合宿を伴うので精神面で悩む部員が多い
25	卓球部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		練習前の準備運動、休憩時間中の換気	現場に居合わせた部員に任せている	
26	軟式庭球部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		適度に休憩をとる。	マニュアルはないが、周知できている	

2019年度10月体育会課外活動状況確認調査結果

番号	団体名/質問事項	2. 指導体制について		3. OB・OG会との関係について	4. 今後のOB・OG会との関係について部としてどのような方針か	5. OB・OG会に部として望むこと	6. 部内の安全対策について		7. 自由記述
		(1)メイン指導者について	(2)指導資格の有無について				取組み	事故発生時の対処	
27	ハンドボール部 (男・女)	渡辺徹:外部コーチ OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない	なし	適度な水分補給 危ない時は全員で声がけし危険を知らせる	幹部学生のみ知っている	人数が少ない
28	(理)バスケットボール部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない		休憩を多くとり、水分補給を徹底しています。	現場に居合わせた部員に任せている	現役の人数がとても少なく、練習を行えない状態が続いています。
29	バドミントン部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		熱中症の対策などには、スポーツの性質上体育館を閉め切って活動を行っているので、練習の休憩の合間にしっかりと水分補給や窓を開けることを意識して活動をしている。 頭部の怪我については選手同士がダブルスなどでぶつからない様にそしてコート内で転ばないように留意してる。モップをかけて滑りづらくしてる。	マニュアルはないが、周知できている	
30-1	バレーボール部 (男)	内田誠一:監督:OB OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない		氷のうやテーピング、包帯など 応急処置のための医療道具を揃えています。 頭部に怪我をした場合は、患者の状態を調べ、応急処置をしたのちに、病院へ電話をして指示を仰ぎます。	マニュアルはないが、周知できている	特になし。
30-2	バレーボール部 (女)	西田拓司:監督:OB OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない	就職活動と金銭面 のご支援	部活動前後で必ずストレッチの時間を設けて、こまめに給水の時間を取るようにしている。プレー中で選手同士の衝突を避けるために声を出すようにしている。またボールを転がしたままにすると踏んで転倒する可能性があるためボール拾いを集中してやっている。もしコートに入ってしまった時は注意を呼びかける。	マニュアルはないが、周知できている	特にありません。
31	馬術部	久保田隆夫:監督:OB 月川万里子:コーチ:OG OBOG会承知している	日本馬術連盟公認馬術資格	特に問題はない	現状維持で問題ない		人馬ともに熱中症を予防するため、こまめに水分を取るよう促したり、なるべく日陰で作業をしたり、運動時間を少なくしています。 また、怪我を予防するために下級生が馬を扱ったり、乗る際には必ず上級生がついて指導をしています。	マニュアルはないが、周知できている	

2019年度10月体育会課外活動状況確認調査結果

番号	団体名/質問事項	2. 指導体制について		3. OB・OG会との関係について	4. 今後のOB・OG会との関係について部としてどのような方針か	5. OB・OG会に部として望むこと	6. 部内の安全対策について		7. 自由記述
		(1)メイン指導者について	(2)指導資格の有無について				取組み	事故発生時の対処	
32	ヨット部	内田智之:監督:OB OBOG会承知している	指導者資格保有者はいない	良好である	もっと関わりを増やしたい	特になし	熱中症予防のため練習中の帽子の着用、水分補給時間の確保に取り組んでいる	マニュアルはないが、周知できている	部員が少数しかおらず、存続が危ぶまれている。
33	ラグビーフットボール部	池田元:監督:OB OBOG会承知している	アスレティックトレーナー	良好である	現状維持で問題ない		コンタクトが起こる練習を行う際には、トレーナーが必ず付き添い処置を行える状況にしている。	部内でマニュアルがあり、周知できている	
34	陸上競技部	森貴樹:監督:OB	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		熱中症に関しては、マネージャーが氷の準備や水分補給を促しています。怪我に関しては、準備運動や練習後のマッサージなどを部として行っています。	現場に居合わせた部員に任せている	様々な部活が活動を始めていると思いますが、授業も対面でない中、どのくらい部として縛りをかけて集まっていけるかは悩んでいます。モチベーションの個人差もありますし、感染リスクもゼロではないので、その中で新入生を呼び込むのは難しいと思っています。
35	籠球部	上野浩幸:監督:OB OBOG会承知している	JBA C級ライセンス	良好である	現状維持で問題ない		こまめに水分を摂るように気をつけている ストレッチの時間を十分に取っている	マニュアルはないが、周知できている	
36	ワンダーフォーゲル部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		休憩を多く取り入れ、無理をしないよう呼びかけている。	部内でマニュアルがあり、周知できている	特になし
37	レスリング部								
38	ボクシング部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	特に問題はない	現状維持で問題ない		こまめな水分補給 テーピングなどによる各部の保護	部内でマニュアルがあり、周知できている	
39	軟式野球部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	良好である	現状維持で問題ない		その日の気温や、熱中症警戒情報などに合わせて、休憩の頻度、時間を変えている。コロナ以前は共用のジャグや氷、塩分タブレットなどで、こまめな水分補給、塩分補給をしていた。現在は各自が多めに水分を持ってくることを推奨している。 打者、走者、ランナーコーチのヘルメット着用をに義務付けている。	マニュアルはないが、周知できている	学外のグラウンドを借りている為、グラウンド使用料がかかる上に、他のチームとの抽選に外れると練習ができない。大学内のグラウンドを少しでも使いたい。

2019年度10月体育会課外活動状況確認調査結果

番号	団体名/質問事項	2. 指導体制について		3. OB・OG会との関係について	4. 今後のOB・OG会との関係について部としてどのような方針か	5. OB・OG会に部として望むこと	6. 部内の安全対策について		7. 自由記述
		(1)メイン指導者について	(2)指導資格の有無について				取組み	事故発生時の対処	
40-1	ラクロス部(男子)	岩切健祐:ヘッドコーチ:OB OBOG会承知している	日本ラクロスアカデミーA 級指導者	良好である	現状維持で問題ない	特にない	<ul style="list-style-type: none"> ・プレー外や休憩中にヘルメットを取る ・塩分チャージやスポーツドリンク ・氷水を袋に入れ首に当てる ・クォーター間で選手に霧吹きをする ・トレーナーのマッサージ ・トレーナーがテーピングを巻く ・脚立やシュートの方向などの配慮 ・ボールカバーを必ずつける ・ヘルメットを自分の頭のサイズに合わせる 	現場に居合わせた部員に任せている	特にありません。
40-2	ラクロス部(女子)	飯田久代:ヘッドコーチ:OG OBOG会承知している	ラクロス協会A級指導者資格	良好である	現状維持で問題ない		<p>熱中症予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習前500mlのスポーツドリンク摂取 ・塩分チャージを練習中に摂る ・氷嚢を各自持参し使用する ・レストや待機場所の管理(日陰など) <p>脳震盪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳震盪の危険性を定期的にスタッフからチームに向けて周知 ・危険なプレーなどが起きた際に注意喚起をする ・練習環境に応じて声かけをする 	マニュアルはないが、周知できている	サッカー場を使用している団体が多いため、練習時間の確保が毎年の課題。
41	ライフセービング部	メインの指導者はいない	指導者資格保有者はいない	良好である	もっと関わりを増やしたい	特にないです	<p>ケガの対処については、マネージャーもすぐに対応できるように全員に周知しています。練習前はマネージャーが全員の健康チェックをして、体調が悪そうであれば、本人ができると言っても見学させるか、帰らせるか判断しています。また、プレイヤーは人を助ける仕事のため、なるべく自分自身で体調管理をするようにしています。</p>	マニュアルはないが、周知できている	今のところ特にございません。

2020年 月 日

学生部アンケート【体育会】

学生部では、課外活動団体への活動支援を行っています。

本アンケートは各団体が活動を通じて、感じていること、思っていること、工夫していることを聴取するもので、これを参考に指導・助言ならびに支援の充実に努めていきたいと思えます。また、各団体が行っている安全対策や危機管理、マナー対策について把握し、各団体と共有することで、更なる支援ができればと考えています。

なお、本アンケートは2月に開催される体育会リーダーズキャンプのグループ討論の参考資料として活用します。全団体に公開されるものですので、自団体の取り組みや懸案事項について情報共有できるものを記入してください。

団体名	
記入者氏名	
提出期限・場所	12月18日(金) 学生部(オンライン回答)

1. 団体活動状況について

(1) 安全管理について

各団体が行っている活動中の事故、怪我に関する安全管理の対策を記入してください。

(2) 新入部員の獲得方法について

新入部員の獲得について各団体が工夫している点、困っている点を記入してください。

(3) 部内でのミーティングについて

部内で定期的に行っているミーティングの内容・頻度を記入してください。また、臨時に開かれるミーティングがあれば、こういったときに開かれるのか内容も含めて記入してください。

裏面に続く

(4)部員の退部状況について

昨年度の退部者人数と、その主な理由を記入してください。また、退部者を減らすために団体として何かしていることがあれば記入してください。

(5)OB・OGとの関係について

現在のOB・OGとの関係を記入してください。練習・試合等の参加状況、OB・OGとの交流会、就職活動サポートの有無など具体的な状況を記入してください。

2. マナー・モラルについて

(1)成蹊大学の中で体育会の学生はどうあるべきだと考えますか？体育会としての自覚や行動について各団体で取り組んでいることを記入してください。

(2)SNS(Twitter、Instagram,Facebook、LINE等)のトラブルについて、それを防ぐために各団体で取り組んでいることを記入してください。

(3)過度の飲酒、未成年飲酒、飲酒時のトラブルについて、それを防ぐために各団体で取り組んでいることを記入してください。

以上です、ありがとうございました



Seikei Masters Athlete News

22号

2020年
6月

発行人

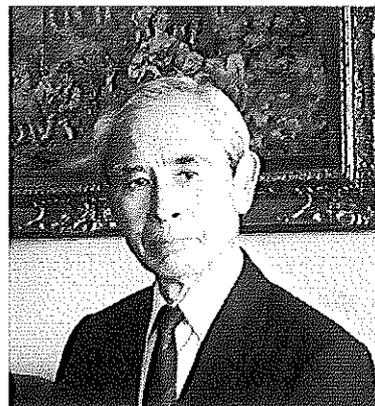
成蹊大学 体育会OBOG会長連絡協議会
広報委員会

Seikei Masters Athlete Board

新型コロナウイルスの感染防止と

体育会OBOG会長連絡協議会の今後の活動について

会員の皆様に置かれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、OBOG 会長会の活動に対してご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、体育会の OBOG として、自団体の運営と学生達へのご指導とご支援にご尽力を尽くされ敬意を表する次第です。



A. 新型コロナウイルス感染防止について

2019年12月、中国の武漢市において原因不明の肺炎が猛威をふるい、そこから始まった新型コロナウイルス問題は、ご承知のように、世界の感染者数 900 万人・死者数 47 万人、日本では感染者数 1 万 8 千人・死者数 1 千人と膨れ上がり、世界の大問題となっています。

その影響は、成蹊学園にも拡大し、「卒業式中止！入学式中止！桜祭中止！大学内の立入禁止！授業中止！クラブ活動禁止！学内施設使用禁止！集会禁止！大学職員の在宅勤務！等々」となりましたが、皆さん！このような事態の発生を予測出来ましたか？

そして、新型コロナ問題は社会経済にも大きな打撃を与え、日頃、アルバイトで生計の一部を立てている学生達も経済的に困窮し、大学の生活やクラブ活動の継続が困難な学生も出始めてきており、政府による「新型コロナ学生支援緊急給付金」や大学と成蹊会が先日、共同で実施した「新型コロナ成蹊会特別支援金」への申し込みも増加しています。後輩の学生達が新型コロナ問題によって、学業やクラブ活動を続けることが出来なくなることは絶対に避けなければなりません。

日頃から、各運動部員達への指導と支援を目的としている各 OBOG 会は、その状況を理解し新型コロナ問題で困窮している団体や学生達を金銭的な支援も含めて、全面的に支えていくことが必要です。戦う相手が新型コロナという未知の強敵であり難しい問題ですが、各 OBOG 会の支援活動の真価が問われている問題とも言えます。

また、このような状況下で大学内の課外活動に対して、新型コロナ問題の安全対策や安全管理を実施しているのは、学生部の境部長、学生部学生支援事務室の熊崎課長です。大学体育会内の団体や学生達に対して種々の新型コロナ対策を指示し管理していますが、その都度、OBOG 会長会宛てにも、その情報を発信して頂き、皆様に適時配信しています。

この連携によって、大学の新型コロナ問題に対する基本的な考え方や規則を理解することができ大変貴重な情報と感謝しております。このことは、体育会の学生達と大学学生部と OBOG との情報共有化と活動の一体感「オール成蹊！」の醸成に役立っており、学生部との連携の重要性を感じております。

2020年5月27日、体育会本部の学生達から「課外活動再開への願出書」が学生部に提出され、北川学長と学生部で検討の結果、6月9日、体育会クラブ活動の段階的な再開ルールが決定されました。

結果、6月21日より、蹴球部、ラグビーフットボール部などが許可され、活動が再開されました。

これは、屋外の指定施設使用の団体に限って、各部毎に新型コロナ問題への安全対策や規則を書類にまとめ、学生部学生支援事務室と協議し、承認を受けて活動の再開許可（期間は7月末まで、8月以降は別途検討）となるというものです。これらの安全対策書類関係は、各スポーツ分野の協会や連盟で作成されたマニュアルを基本として自団体用に改善したもので、そのマニュアルやチェックリストが実際の活動時に十分に活用できるものでなければ許可は下りません。再開後、1人でも感染者が発生した場合は全団体の活動が中止となってしまいます。

安全管理などの経験の少ない、そして書類づくりの未熟な学生達には、OBOGの経験的知識による指導が必要になります。是非、各OBOG会の支援の強化をお願いする次第です。

また、屋内施設を利用する団体は、換気等三蜜問題の解決策の検討（大学に対する設備改善案も含めて）や安全対策のまとめ、活動再開願出書の提出、学生部との事前協議等が必要になると思われますが、OBOG会長会を通して、お互いの連携を強化し、早期の再開を目指したいと思います。

学生達が新型コロナ問題の安全対策を自ら企画し、クラブの活動を管理し、運営して、結果ができれば、その活動を通して、課外活動の理念である真の人間形成に役立ち、課外活動の真価を体験することができると思います。この世界的な問題が如何に進展していくのか？未知の部分も多いのですが、OBOGの皆様のご支援をよろしくお願いします。

B. 体育会 OBOG 会長連絡協議会の今後の活動について

2020年6月、第7回「OBOG会長連絡協議会」総会を開催して、更なる活性化を図るために会の組織を連絡協議会から連合会に格上げして、「（仮）体育会 OBOG 会連合会」を発足させるべく、昨年9月頃から世話人会で検討を進めてきました。しかし、この新型コロナ問題のお陰で動きが取れず、作業の延期と総会開催の延期を止む無く決定しました。新連合会の名称、規約、会員、予算、会費、役割と役職など新連合会の基礎的な部分は、ある程度まとめていますが、各団体の会員の皆様のご理解とご要望など詰めの作業が残っています。また、毎年、実施してきた各OBOG会の活動状況のアンケート調査も延期をしました。新型コロナ問題の動向は不明ですが、7～10月に世話人会において協議を継続し、半年遅れの11～12月に総会を開催し、新連合会を発足させたいと考えております。

その節はよろしくお願ひいたします。

参考に、OBOG会長会の設立経緯と活動事業について記します。

1. OBOG 会長会の設立経緯について

OBOG会長会の設立総会は2012年4月に開催されました。設立の動機やその背景は、2012年の成蹊学園創立100周年と2010年12月に発生した空手部事件が大きく関わっています。

2011年、成蹊会スポーツ振興委員会と体育会 OBOG の有志が集い、「創立100周年を迎えるにあたって成蹊スポーツと体育会の更なる発展」のために、そして「空手部事件のような体育会不祥事の再発防止」のために協議会の結成が決まり、有志が世話人となり設立総会の検討を始めました。

第1回設立総会～第5回総会までの世話人は、会長貴島健治（1963 政卒、ラグビー）、副会長御厨雅宏（1969 工卒、サッカー）、副会長武田彰（1972 経卒、硬式テニス）、事務局長木村明彦（1969 政卒、バレー）、丹羽秀夫（1969 政卒、ヨット）、力石浩（1972 法卒、サッカー）、水谷一郎（1970 工卒、陸上競技）、三居勝一（1976 法卒、弓道、故人）、鈴木茂之（1977 法卒、スキー）、尾日向多津子（1974 文卒、工バスケット）、赤石益輝（1985 経卒、アメフト）の11名で世話人会を結成し、協議会を運営してきました。第6回2019年総会から、貴島氏、武田氏、丹羽氏、水谷氏、鈴木氏、三居氏（故人）

が退任し、相談役として高所からご指導を頂くことになりました。

2019年度からの世話人体制は、会長御厨雅宏、副会長木村明彦、副会長山田豊（1968 政卒、ラグビー）、副会長本間秀雄（1972 経卒、硬式野球）、事務局長小町敏則（1971 法卒、ヨット）、力石浩、赤石益輝、尾日向多津子、諸見里光（1979 経卒、バスケット）、江橋治郎（1979 法卒、硬式テニス）、八木忠則（1976 法卒、ラグビー）、宮下尚麿（1985 経卒、サッカー）の12名で運営をしています。

会員数は、体育会40団体のOBOG会長や各団体OBOG会幹部で総勢約150名となっています。

2. OBOG 会長会の活動事業について

2014年設立総会において、会の設立目的が決議されました。

【本会は、建学の精神を基本として**成蹊大学体育会の健全な発展のために**、体育会のあるべき理想の姿を模索し、その実現のために**会員の英知を結集し、有益な提言・支援を行う**とともに会員相互の親睦を深めることを目的とします】

*「建学の精神」⇒ 品性の陶冶・個性の尊重・勤労の実践

*成蹊大学体育会の目指す人材⇒ 《文武両道を基本として、社会で活躍できるリーダーの育成!》

設立から6年経過しましたが、体育会活動の発展に向けて、会員の皆様と共に有益な提言・支援を学生部、及び体育会本部と連携を取りながら協議会の運営を進めてきました。具体的な主な活動を記します。

① 体育会の健全な発展に向けた提言・支援活動

*他大学の体育会運営組織や実態運営の定期的調査（早稲田、慶応、筑波、学習院、甲南、上智調査）

体育会のOBOG連合会を保有している大学は多数ありますが、会員の親睦目的の団体が殆どです。

実質に有効な活動が展開され、成蹊として参考になるのは、早稲田・慶応・甲南大学です。

*体育会の諸規定の配信と行動徹底のための提言（学生部との連携）

*体育会活動の安全管理の徹底、不祥事再発防止（学生部課外活動助言委員会への参画）

*指導者の資格「スポーツリーダー」の取得推進、学内資格「課外活動リーダー」取得推進

*学生部主催アスリートセミナーへの参画（年2回開催）

*リーダーズキャンプへの参画（年1回開催）

*体育会各団体（学生）及びOBOG会の活動状況アンケート結果の分析と問題点の把握

（学生団体は学生部、OBOG会はOBOG会長会にて調査実施）

*大学スポーツ新潮流の「日本版NCAA」の動向調査と把握（学生部と連携）

②OBOG 会長会の広報活動、会員の親睦活動

*「マスターズ・アスリート・ニュース（SMAN）」の定期的発行、会の情報の共有化

*総会・セミナー・説明会等の開催

*総会・セミナー開催後の親睦会の開催

*体育会各団体の周年記念行事への参画

③関係部門との連携強化と密な交流

*学生部、学生部学生支援事務室との連携強化、親睦会の開催

*体育会本部との交流と支援

現状、体育会本部は、4大学競技大会、学内スポーツ大会、樺祭りなど行事推進本部の活動が主であり、体育会40団体の活動の管理本部の役割は停滞しており、改善が必要である。

* 学園長、学長、成蹊会、管財部（施設関係）への定期訪問、情報交換等

④会の運営活動（事務局）

- * 会員名簿、連絡網の整備、情報の受発信
- * 総会、セミナー、世話人会等会合の段取り、資料管理
- * 会計、予算、決算報告（年会費は無し）
- * OBOG 会長会内の資料閲覧システムの構築

以上が OBOG 会長会の活動ですがこの 6 年間、世話人を中心に皆様の支援を受けながら活動してきました。OBOG 会長会の活動は、学生部との連携が一段と強化され、大学体育会の公的な提言機関として認識されており、学園長・学長にもご理解を頂いています。更に会の発展と活性化のためには、人材と資金の増強が必要であり、新連合会として活動の拡大を目指していきたくと思います。

新規に計画している活動としては下記です。

- * 監督、コーチに対する「（仮）指導者マニュアル」の作成（安全管理の徹底含む）
- * 監督、コーチに対する指導者会議の開催
- * 体育会や各団体の歴史資料のまとめ（各部団体周年行事への支援）
- * 有名人、社会人（成蹊 OBOG 含む）講師によるセミナーの開催（就活支援含む）
- * その他

会の設立経緯と活動について記してきましたが、会員の皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。成蹊大学体育会を卒業された皆様の成蹊と後輩に対する愛情のエネルギーを燃やして頂いて、自団体への支援活動も含めて、新 OBOG 連合会への参画とご支援を心からお願い申し上げます。 以上

Information 重要なお知らせ

□2020 年 4～6 月は、新型コロナウイルスの感染拡大問題の進捗が不透明ななか、卒業式中止、入学式中止、大学内の立ち入り禁止、クラブ活動の禁止等々となり、各クラブにあっては新入部委員の確保もままならない状況となっています。OBOG 会の皆様が支援を差し伸べられる良いチャンスです。よろしくご指導・ご支援をお願いいたします。

編集責任者 木村明彦



Seikei Masters Athlete News

23号

2020年
9月

発行人

成蹊大学 体育会OBOG会長連絡協議会
広報委員会

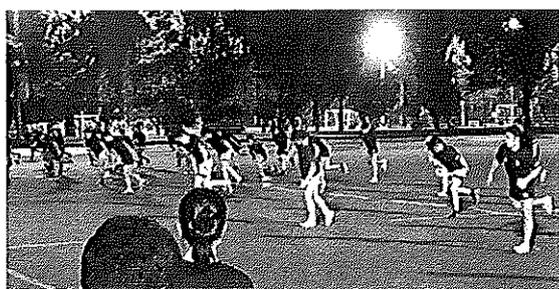
Seikei Masters Athlete Board

本年初から新型コロナウイルスの感染拡大問題の進捗が不透明ななか、卒業式中止、入学式中止、大学内立ち入り禁止、クラブ活動の禁止等々となり、各クラブにあっては新入部委員の確保問題もままならない状態のなか瞬間に6か月間が経過しました。この間各クラブはどのような思いで活動をしてきたのか、幾つかのクラブに活動内容を投稿してもらいましたので掲載します。

まだまだコロナ問題が予断を許さない状況下、学長、学生部の大英断で8月29日以降部活動の再開が許可されました。このことを重く受け止め学生はもちろんのこと OBOG の方々も温かい目でご指導を頂きますようお願いいたします。

【ラグビーフットボール部】

体育会ラグビーフットボール部 2020 年度活動状況を報告いたします。



2月11日、55名の部員でシーズンを開始しました。例年通り、3月下旬までは身体を作るトレーニングを計画して練習に励みましたが、2月29日、コロナ感染拡大に伴い3月15日までの課外活動禁止通達を受け、監督・チームドクター・トレーナー指導の下、各自自宅にて Zoom を用いて自体重ウエイトトレーニングを開始しました。(バーベル等の器具を使用できないため)その後も8月下旬までは、活動再開・禁止となる感

染状況が続き、Zoom トレーニング・自宅周りのランニング等々の自主練習が多い日々となりました。

また、新入学生には、監督・コーチによるリモート面談を実施し、20名(男子16名、女子4名)の仲間を得ることが出来ました。新入生も先輩同様に Zoom 指導トレーニングを続けています。

8月29日から活動再開が許可され学内施設の使用が可能となりました。

「安全対策活動マニュアル」を遵守し、もちろん、強制参加ではなく、保護者承諾を得て参加可能とし、検温・手指消毒・3密回避の安全対策を徹底し練習を再開します。

再開のご判断をくださいました、北川学長、境学生部長、熊崎学生課長に御礼申し上げます。

大学スポーツにとっては大変な年となってしまいましたが、学生達が大好きなスポーツで活躍できる日が一日も早く来ることを願います。

強化委員長 八木忠則 (76卒) 寄稿

【蹴球部】

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、大学より3月1日を以て、部活動の禁止及び大学内立ち入り禁止の発令があり、活動自粛措置が取られました。自粛期間は3月1日～6月20日までとなり、その間は大学外での練習はもちろんすべての活動が停止されることを余儀なくされました。



学生はこの期間自主トレのみの活動となり、また、公式戦についてもアミノバイタル杯、4月より開催される予定でありましたリーグ戦も開催延期となりました。

なお、この時期は他大学につきましてもほとんどが同様の自粛措置が取られています。

緊急事態宣言の解除以降、大学と体育会本部とで部活動再開に向

けて幾度となく交渉してきたところ、大学より、「各部でガイドラインを定め大学に提出、大学が内容を精査のうえ許可した部にのみ活動を許可する」こととなり、大学からガイドライン作成については学生だけでなくOBが関与してほしいとの指示もあり、ガイドラインを作成、6月20日を以て、活動に制限はあるもののグラウンドの使用、活動が限定的に許可されました。

限定的な活動とは、

- ① 活動時間を2時間とし人数は30名以内とする。(毎回メンバー表を提出)
- ② 活動前に学生、スタッフは体温を測り、管理表にて管理する。
- ③ 活動は原則休日、祭日のみ。授業日はオンラインで実施している以上、授業日の活動は原則不可
- ④ 部室、シャワーなどの原則使用禁止
- ⑤ プレーしている以外の時間は原則マイボトルとする

などを条件に6月21日日曜日より練習を再開していましたが、東京都の感染状況警戒レベル引き上げに伴い、7月27日(月)以降の課外活動が再停止となりました。

公式戦であるリーグ戦が9月初旬に控えていることもあり、「活動停止」は極めて厳しい判断と言わざるを得ない状況ではあるものの、コロナ禍のなか、これ以上感染者を増加させる環境におくことを、「活動停止」にて回避することは大学として適正な判断であり、活動再開になるまで、自己の責任においてトレーニングをすることで体力維持を図ってきました。

そんな中、大学より「WITH コロナ」という世論を鑑み、加えて公式戦に入るうえで練習不足による怪我がないよう準備期間を要するには早期の活動再開が必要という学長のご英断もあり、8月29日に活動再開の許可をいただき、公式戦にむけガイドラインを守りつつ、日々練習に励んでおります。

現在はリーグ戦の優勝を目指し学生が一丸となってサッカーに取り組んでおり、グラウンドにも活気が戻ってきています。OBと致しましては、コロナ禍における万全な感染対策の励行、目標である関東リーグでの復活を祈念するばかりです。

強化委員長 宮下尚麿(85卒) 寄稿



【硬式野球部】

『コロナ禍をチャンスと捉えて心身を鍛える』

体育会硬式野球部は、学生による自主運営態勢(毎年4年生が学生監督に任命されるのもその一つの表れです)を基本とし、プロ野球で実績と指導経験のある方にサポートをお願いしています。そして2月に全体練習をスタートさせました。天城高原で一週間の合宿を行った他、各選手の強化ポイントを明確にした上で自主練習に取り組み、東都大学野球リーグの三部優勝を目標にしています。

3月から6月までは、コロナ禍で課外活動が禁止され、公式戦(春のリーグ戦)を含めて全ての試合を中止せざるを得なくなり、掛ける言葉が見つからないという状態でした。

しかし学生には野球部の活動を通して、『分別のある社会人になる』との目的を持たせ、自宅でトレーニングを継続させました。6月末に活動が許可された折には、プロ野球を参考にWITH コロナを踏まえての活動が



出切るよう独自のマニュアルを作成しました。チームを3つに分けての練習など、「密」を避ける工夫をし、4か月振りの練習再開となりました。

野球場の瑞々しい緑の芝の上で、選手は軽快な動きを見せ、直ぐにでもリーグ戦を戦える状態でした。

10月開催予定となった秋季リーグ戦に向けて、コロナ禍であっても野球部の目的を果たすために各選手が自主的な行動を継続しています。

シニアアドバイザー 信太誠一（88卒） 寄稿

【硬式庭球部】



今年の7月末、加盟する関東大学テニス連盟から、新型コロナウイルス感染拡大の状況を勘案し、2020年度関東大学テニスリーグ（リーグ戦）を中止する、との通知が届きました。

硬式庭球部は、成蹊大学が創設された1949年（昭和24年）から、リーグ戦に出場してきましたが、70年を超える長い歴史の中で、リーグ戦が中止となったのは初めてのことです。

テニスは個人競技であるため、部活動としての目標は、団体戦に置かれます。中止の連絡を受けた現役部員たち、とりわけ最終

学年で迎えるリーグ戦を大きな目標としてきた4年生にとっては、たいへんなショックであり、無念だったことと思います。こうした中で、4年生から、今のチームメンバーでできなかった団体戦（対抗戦）を実施して、自分たちの区切りと、後進へのバトンタッチの機会にしたい、という相談がOBOG会に寄せられました。

他校との対外試合の実施はもちろん、通常の練習にも制限が多い状況ですので、現役と相談の結果、OBOGとのリーグ戦を模した対抗戦を開催する計画となりました。

9月20日（日）に、若手OBOG選抜15名と、現役との対抗戦を開催しました。

顧問の境先生も見学に来ていただき、試合後には、現役への激励のご挨拶を頂戴しました。

コロナ禍にあって、現役に対してOBOG会として何ができるだろうか、と悩んでいましたが、現役部員の久しぶりの笑顔を見ることができて、参加したOBOGもほっとした様子でした。

新型コロナウイルス感染拡大は、まだまだ予断をゆるさない状況ですので、今後も、OBOG会としてできる現役支援をいろいろと考えていきたいと思っています。硬式庭球部OB会会長 江橋治郎（79卒） 寄稿

参考になりましたでしょうか。

学生がどうするか、どう行動するか決めなければ行けませんが、そのアドバイスが必要な時があります。学生の活動する環境を整えるとはこのような環境下だからこそOBOGが寄り添う必要があるのではないのでしょうか。自主的にトレーニングを行う学生、現代風にZoomを使用しての指導。トレーナーやドクターの指導があると心強いですね。

Information 重要なお知らせ

□9月号の原稿を頂いておきながら当方の都合でSMA news 23号の発刊が遅れてしまいました。お詫び申し上げます。

編集責任者 木村明彦

体育会クラブ活動再開にあたって成蹊大学体育会 OBOG 連絡協議会
会長 御厨雅宏 (1969 年工卒)

オリンピック開催予定だった 2020 年は、早くも初秋の 9 月を迎えました。6 月から 8 月は、新型コロナウイルス問題が蔓延する中、長い梅雨、集中豪雨災害、猛暑の異常気象や経済不況等、暗く重たい環境が続き、皆様も湿ったステイホーム生活の毎日だったと思います。

成蹊大学の学生達も通学や集会禁止とオンライン授業中心の寂しい大学生活を送っています。

クラブ活動は 7 月に再開されましたが、東京・大阪を中心に感染拡大となり、8 月は再度活動禁止となりました。体育会の学生達は、活動禁止の状況を理解しつつ、じっと耐えしのぎながら、活動再開と秋の大会やリーグ戦の開催を信じながら、自己の体力トレーニングを続けています。

OBOG 会長会の判断としても、「コロナは世界的な問題であり、ワクチン未開発、ウィルスの実態や変異など未知の部分が多く、その治療法も確立されていない状況下であり、考えられる感染予防策を可能な限り実施することが重要である。未来ある学生達のクラブ活動に対しては、その活動中に、数多くの三蜜状態が発生するため、原則として中止することが望ましい。未知や未確立の問題に対して約束や責任をとることは出来ません。」として、大学のクラブ活動禁止に対して適格であると判断しました。

しかし、8 月に入り、自分が大学 4 年生の時にクラブ活動によって得た貴重な経験を意識するようになり、現在の 4 年生部員の心境を察することが多くなりました。

又、世の中も「With コロナ」という風潮に変化しつつあり、又、「秋の公式大会出場を実現してあげたい」という OBOG 皆さんの声も数多く寄せられるようになりました。

そして、今回の大学のクラブ活動再開の決定 (2020 年 8 月 29 日) !

大学や学園、ご父兄などの中には異論のある方もいらっしゃると思いますが、今回の大学の判断は最良であると思います。英断を下された北川 学長、境 学生部部長、熊崎 学生支援事務室課長に対して、心から敬意を表すると共にお礼を申し上げたいと思います。

体育会の学生達は、今回のクラブ活動再開により、新型コロナ感染予防対策を正面から受け止め、その徹底に自発的な努力を重ねると共に自分と成蹊大学の誇りをかけて戦い、立派な成果を残してくれると思います。そこで経験した感染予防下での自律的な厳しいクラブ活動は、より高度な人間的成長を彼らに与えてくれるものと信じます。

皆さん! 各 OBOG 会として、監督・コーチも含めて、感染予防について、そして学生達の自律的な活動に対して助言・指導・支援をお願い申し上げます。その中で、特に留意して頂きたいのは、学生の中には活動に対して不安を抱いている者も少なからずいるということです。クラブ活動再開への参加を強要するようなことが無いことはもちろんですが、「自分が休むと皆に迷惑をかけるのでは?」などの雰囲気も作らないようご指導をお願いします。

これからが本当の戦いであると思います。新型コロナとの戦いに勝利しましょう!

よろしくお願い申し上げます。 以上

体育会所属クラブ 周年誌リスト (2019.11.23 現在史料館)

OBOG 会長会 2020. 4. 3

【部名】	【書名】	【編集者、発行者】	【発行年月】	【頁数】
陸上競技部	成蹊陸上 50 年	成蹊陸友会	1984 年 6 月	301P
〃 〃	陸上競技部 75 周年史	〃 〃	2004 年 3 月	61P
踏高会 (山岳部?)	虹芝寮日誌	成蹊踏高会編	1986 年 4 月	380P
〃 〃	虹芝寮 50 周年記念出版	虹芝寮 50 周年記念刊行委員会	1987 年 9 月	81P
〃 〃	虹芝寮六十周年記念報告書	虹芝寮六十周年記念事業準備会	1992 年 11 月	7P
〃 〃	虹芝寮 80 年の歩み	成蹊踏高会	2013 年 3 月	325P
硬式庭球部	成蹊テニス 60 年記念誌	成蹊テニス会	1989 年 3 月	390P
〃 〃	硬式庭球部創部 75 周年記念誌	成蹊テニス会	2001 年	67P
柔道部	成蹊柔道部五十年史	吉岡武 長澤陽一編、白蹊会	1979 年 1 月	143P
〃 〃	成蹊柔道部七十年史	内田忠良 吉岡武編、成蹊柔道会	1999 年 9 月	98P
〃 〃	成蹊柔道部八十年史	成蹊柔道会	2009 年 2 月	85P
ラグビー部	成蹊ラグビー五十年史	成蹊ラグークラブ	1977 年 4 月	340P
〃 〃	成蹊ラグビー七十年史	成蹊ラグークラブ	1997 年 4 月	312P
〃 〃 (※)	成蹊ラグビー九十年史	成蹊ラグークラブ	2013 年	301P
自動車部	自動車部 15 周年記念誌	自動車部記念誌編纂員編	1970 年 7 月	
〃 〃	創部 40 周年記念誌	成蹊大学自動車部 OB 会	2005 年	70P
アーチェリークラブ	創部 30 周年記念誌	成蹊大学アーチェリークラブ OB 会	1989 年	182P
〃 〃	Seikei Univ. Archery Club 50th Anniversary	〃 〃	2009 年 12 月	96P
バスケットボール部	バスケットボール部 50 年史	成蹊籠球会	1981 年 4 月	119P
スキー山岳部 (岳蹊会)	岳蹊 (やまのこみち) 5 号二十周年記念号	スキー山岳部 OB 会	1982 年 3 月	302P
フェンシング部	フェンシング部 25 年のあゆみ	創部 25 周年記念実行委員会編	1990 年 4 月	83P
水泳部	成蹊水泳部史	創部から戦後の黄金時代へ 西原春夫編	2000 年 8 月	165P
硬式野球部	硬式野球部 80 年の歩み	成蹊学園蹊球会	2006 年	84P
馬術部	成蹊学園馬術部史	蹊蹄会	2006 年 12 月	336P
ヨット部 (※)	ヨット部創部 60 周年記念誌	ヨット部 OB 会	2011 年 3 月	
軟式庭球部	軟式庭球部 60 周年記念誌	成蹊大学軟球会	2011 年 6 月	
剣道部	学園剣道部百年誌	剣道部百周年記念式典実行委員会編	2016 年 11 月	255P
蹴球部 (※)	学園サッカー部創部 100 周年記念誌	創部 100 周年事業委員会	2018 年 3 月	108P
バレーボール部 (※)	創部 70 周年記念誌	けやき倶楽部 70 年誌編纂委員会編	2018 年 11 月	149P

(※) 印のクラブの記念誌は史料館で展示中です。

作成 木村明彦

